

令和3年度第3回ちば文化芸術振興懇談会

1 日 時 令和4年3月24日（木）午前10時30分～午前11時30分

2 場 所 千葉県庁南庁舎4階 収用委員会審理室

3 出席委員

加藤 修 委員（座長）、鈴木 通大 委員（副座長）、生田 裕人 委員、草加 叔也 委員、
椎名 喜予 委員、椎名 誠 委員、信太 康宏 委員、鈴木 勲 委員、水越 雅信 委員
以上9名

4 議事の概要

(1)「千葉県文化芸術推進基本計画」最終案について（報告）

パブリックコメント及び市町村への意見照会（令和4年1月21日～2月14日実施）の結果を反映した「千葉県文化芸術推進基本計画」最終案について、前回懇談会で提示した原案からの修正点と冊子完成までのスケジュールを事務局から説明し、その後、各委員による意見交換を行った。

【座長】

この冊子は、県民の方にわかりやすく「伝える」ことを前提としていて、聞き慣れない単語については丁寧な脚注が付けられるなどして完成したが、計画策定にあたり感じ得た内容を委員の皆様から一言ずつお願いしたいと思います。

【委員】

今回のこの推進基本計画について、大人の方々への計画の提示・展開と同時に、子どもたちへの計画の提示・展開ということを色濃く感じることができて、教育に携わる者としては大変嬉しい。次世代、次の未来を見据えたかたちの風を感じるようなとても素敵で計画であることを、改めて認識させていただいた。

今後も、未来を担っていく子どもたちへ向けてある意味教育的観点から、こういった様々な文化のための施策や計画をどうか振興していければ良いということ、なお一層強く期待しつつ、今回の計画を見ながらこれからの千葉県の文化がどう花開いていくのか、さらに開花を進めていくか、わくわくしながら見守りたいと思っている。

本当にグローバルな、幅広いかたちでの計画の展開について、きめ細かく思いを詰めてくださいました関係各課の皆様に、改めて敬意を表したいと思う。

【委員】

細かいところを修正していただきありがとうございました。私の方から質問させていただきたいのは、まず計画を策定して、これからこの計画がどう地に着く手続きや作業をされようとしているのかということ。それから、この計画の達成度の評価を、どのように今考えているのかということ。令和4年度～6年度まで3年間なので、意外に短い。なかなか文化の変化というのを3年間で計るというのはすごく難しいかもしれないと思っているが、それでも、この計画を策定した成果というのはどこかで計っていかなければいけないと思うので、まだ考え中の段階かもしれないが、今どんな考えかをお伺いしたい。

【事務局】

計画策定後、具体的にどのように取り組んでいくのかということについては、この後事務局から詳しく説明させていただきますが、この4月から組織体制も変わり、文化に特化した所属ができるなど、組織の面では大きな変化がございます。その中で、全庁的にこれまでも文化の要素を取り入れた事業展開をしている部署が他の分野でもありましたので、そのようなところで、いったいどのように文化を活用しているのか、また文化の担当課として何をやっていくのかということについては、4月以降の体制で、一度しっかり予定ということで固めて、その後の事業展開がどうなったかというのは1年ごとに情報収集して、見ていければと思っております。

なお、5つの柱が今回あり、柱ごとに指標ということで置いておりますので、こちらも1年ごとに検証して、今どこまで達成できているのかということを見ていければと思っております。

ただ、指標の中にはまだ統計がとれていないものもあり、「今後増加を目指す」となっているものがございますので、それにつきましては、令和4年度の状況を見て、令和5年度の検証になっていくかと思っております。

なお、先生に御指摘いただいたように、3年というのは短いスパンではありますが、県の上位計画である「千葉県総合計画」の計画期間は3年となっています。総合計画は、10年後の千葉県の目指す姿という大きなスパンと、3年間という実動の方のスパンという、その2つの軸で見えていくというのもあり、文化の方も状況変化などこれからも起こってくるかと思っておりますので、3年後にまたもう一度見直しをして、というかたちで進めていければと思っております。

【委員】

1ページを見ると、『文化芸術立国』を目指すというのが書かれている。それを計画の中に入れていく県、地方自治体はあまりないと思うので、文化芸術振興がこれからの都市の成長戦略だということになっていくと良い。1ページの趣旨からすると、そういうことを目指している、担当課としては目指されているという感じがしたので、ぜひそうなると思う。よろしくお願いします。

【委員】

まず計画策定にあたり、関係した皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今、他の先生の方からもあったが、やはりこれからは文化で地域経済の活性化につながるようなことが求められていくのだろうと考えておりますので、経済の振興と文化芸術というものが上手くコラボしていければ、本当に地域としてはありがたいと思っている。

また新しく、部署も文化に特化したところを創設されるということで大変期待しているので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【委員】

この度のこの基本計画、大変お疲れさまでした。私どもの意見もだいぶ取り入れていただき、本当にありがとうございます。

私の方からは2点だけ述べたいと思う。特に、前回の懇談会でも触れ、先ほど他の先生からの話にもあったが、やはり子どもが小さいうちに文化芸術に、本物に接する機会をつくっ

ていただければ大変嬉しい。

また、観光分野からすれば、やはり地域経済の発展のためにも、文化芸術というのは大事な要素だと思うので、ぜひそういう観光面でも、色々なものが見られる・触れる・鑑賞できる、そういうチャンスをつくっていただければと常々思っている。

今度県の方の組織も変わるということで大変期待しているので、ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【委員】

私も色々とお意見を伺わせていただき、御対応ありがとうございました。立派な計画ができたと思う。

私どもは県全体に文化を振興していくことを目指す団体であり、こちらの計画、特に5章の推進体制のところでも関係機関ということで記載があるので、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。特に本年度からは県内の文化施設4館、指定管理をいただいているので、4館の連携事業といったものを来年度以降も推進していくという方向で、先般理事会を開催し、御承認をいただいた。

こちらの計画の中で書かれている柱の3での多面的な活用といった面では、私どもは本年度から県立中央博物館との連携事業を始めており、来年度も引き続き博物館の方で、我々もミュージアムコンサートを開催させていただくような予定を作っている。こういった博物館、美術館のほか、計画の中にMICEやユニークベニュー等々の記載もあったので、幕張メッセのような施設とも連携を図って、多面的な活用を力尽くしていきたいと思っているので、県の担当課の方にも、ぜひ御協力をお願いできればと思っている。

他にも、先ほど他の先生からもあったが、育成の面では少年少女オーケストラの運営は当然だが、その他にもアウトリーチということで幼稚園などへの事業等も積極的に開催していきたいと思っているので、ぜひ県と一緒に、文化振興に尽くしていきたいと思っているので、引き続きよろしく願いいたします。

【委員】

基本計画の策定、本当にお疲れさまでした。膨大なものを作っていただいた。出来上がっていく過程を一緒に見させていただいたわけだが、本当に回を追っていくごとに施策として整ってきたという感じがする。全体として非常に体系的に整ってきて、まとまってきたのではと思う。関連の施策やアンケート、実態調査等々、それを踏まえて出来上がってきたものが、非常に整ってきたという感じがするので、これを活かして「文化芸術の千葉県」と言われるようになってほしいと思っている。

施策を推進していくにあたっては、感想を2点ばかり述べさせていただきたい。1点は、「関連機関との連携」が39ページにあるが、これは特に大事かなと思うので、ぜひ関連機関との連携を重視していただきたいと思うし、特に市町村との連携という視点が、文面においても少し弱いかなという感じもする。実施するにあたっては、ぜひ市町村との関連を重視していった方が良く思う。

どの市町村も文化行事をやっているが、同じようなことをやっている場合がけっこうある。そのため、その整理整頓というか、市町村と県が個々バラバラに活動するのではなく、むしろ県が総合的にプロデュースする。むしろ県が市町村を支援するような立場でプロデュースする。細かいことは市町村、という立場で、県と市町村が一体になって進めてほしい

と思う。

2点目は、これだけの膨大な施策を実行するにあたっては、やはり予算が必要なので、なかなか厳しい状況ではあるが、ぜひ文化芸術面の予算をさらに豊富に、潤沢になるように、働きかけをお願いできればと思う。そして、文化の予算と併せ、「人」がやはり根本になる。今度組織も新しくなるようなので、人員の裏付け、文化行政のスペシャリストをぜひ育てていただきたい。この裏付けがないと、施策は絵に描いた餅になりかねないので、ぜひそういった面も充実させていただくことを要望したい。ありがとうございました。

【委員】

一般の企業としての意見を述べさせていただきたいと思うが、この基本計画をこれだけ細かく多岐に渡って作られたということ、大変素晴らしいと思う。特に、良いなと思っているのは、施策の柱があり、その次に施策の展開があり、その後にその展開のそれぞれもう少し具体化したものが各3つずつくらい色々あるが、ここまで基本計画でできているというのはあまりないというか、見たことがなく、すごく良いと感じている。

先ほど他の先生から御意見があったが、これをどうやって本当に3年間で実行するのかということが一番大切なことだと思っており、組織が変わる等色々大変なこともあると思うんですが、この内容をまず市町村や関係者に情報共有をして、この計画をきちっと認識いただくことがまず第一だと思う。

それから、どうやって関係部署の協力を取り付けるかということも一番大切で、計画に「充実します」「発表する機会をつくります」「団体の功績をたたえ、表彰します」という記載があるが、具体的にどこが、いつ、誰が、どうする、というところを決めることが大事。4月以降のことになるとは思いますが。

一般企業だと、よく3か年計画等を作るが、社長が承認をし、計画ができると、一般企業だとヒエラルキーがきちっとできているので、上からの命令でいつまでにこれをやれ、それで進捗状況はどうだ、1か月ごとに報告せよ、というのが一斉に出てくる。また、遅れているのは何が原因か、調査しろ、調査結果がわかったらそれはどうする、みたいなことがまた一斉に出てくるが、県の中で、市町村との中で、そういうことができるのかなというのは、少し私もよくわからない。ただ、それをやはりうまくやらないと、よく株主さんから3か年計画はいいけど全然実行できてないじゃないか、みたいなことを良く言われるが、そういうことがないように、ぜひ頑張ってやっていただければ、すごく良い千葉県になると思う。千葉県は広いし、自然もあり、色々な遺産もあるので、日本の中でも一番素晴らしい県になるのではと思うので、ぜひ今後頑張ってやっていただければと思う。ありがとうございました。

(2) その他

県の組織改正等について意見交換を行った。

【委員】

どうも今までお世話になりました。各委員の方々から、この基本計画についての素晴らしさは言われているとおりであり、今後、どういうふうに上手く実行していくかということが肝要ではないかと思うが、これを作り上げた皆様方の力で、これを運用して行ってほしいと

思う。

先ほど他の委員もあつたとおり、千葉県が文化芸術で走っていく、これは本当に素晴らしいことで、私も長い間文化財等色々なものに携わってきたが、理念としても理想としても、実行としても、とても重要なことだと思います。

今、ウクライナ戦争というものが言われているが、これも文化というところから発信していくことによって、平和というものが維持されていくのではないかと、いつも独りよがりにも思っている。そのため、千葉県がオピニオンリーダース的に引っ張っていく、私は神奈川県に住んでいるが、千葉県の計画が素晴らしいと、今度神奈川県の知り合いの人には千葉県はこんなことをやっているから、お互いに頑張ってもらいたいと思う。今大河ドラマにより房総と鎌倉が着目されているが、鎌倉・房総というのは近いので、やはり良いライバルとしてお互いに切磋琢磨して頑張ってもらいたいということを期待している。

最後に1つ質問させていただきたい。組織の中で、スポーツ・文化局ということで一本化される、それは良いことだと思うが、スポーツ・文化局の中に、美術館・中央博物館・現代産業科学館など、いわゆる博物館系の組織が来るが、これは横並びでいくと、文化振興課とどういう並びになるのか。

どういうことかと言うと、普通博物館は、今までの部局でいうと県の文化財課が教育施設を所管しているが、最近市町村や神奈川県では、文化資産の活用ということで、教育庁から独立して、知事部局・市長部局の直轄に、施策のしやすい、発信しやすいところに持っているところがある。ただ、理想としてはやはり、文化財というのと、スポーツ・文化というのが一致していた方が良いと思うので、良い組織改正だなと思ったが、位置としては、例えば博物館などそういう専門的に見る組織があつて、そこに博物館が入っているのかなど、どういう位置づけになるのか教えてほしい。

【事務局】

(令和4年度の県の組織改正(スポーツ・文化局の新設等)について、参考資料「令和4年度 組織及び定数の見直しについて(県報道発表資料抜粋)」をもとに事務局から説明)

資料の補足となりますが、指定管理の施設となるため表には記載していませんが、県立房総のむらについても同様にスポーツ・文化局の所管となります。

なお、御質問のありました美術館・博物館等の位置づけ、文化振興課との並びとしましては、文化振興課の下に美術館・博物館等が並ぶ組織図となる予定です。

また、教育庁の方には文化財課ということで、文化財に特化したものは残る予定となっております。資料にもありますとおり、博物館機能の文化の方は知事部局に移管されまして、文化会館と併せて博物館・美術館を所掌する課が1つ、文化振興課としてできるというイメージとなります。

【座長】

議事1の方も含め少しお話しさせていただくと、他の先生方と意見が重なる部分があるが、今回、立派な計画の冊子ができ、これをどういうふうにして実際の活動につなげるのかが重要と言える。立派な冊子の内容が実動の部署にどう伝えられ、各役割を担っている部署がど

のように連携できるかを強く期待する。

当懇談会では、文化の継承、活性化の課題について考えられてきたが、ニュース等でウクライナ情勢を知ると、文化というものの「存在」について日々考えさせられる。私達はこうした意見交換ができる状況にあること自体に、まず感謝しなければならない。どうしたら観客動員数上げられるかではなく、個々人がその価値を正確に認識することが本来は先にあるのだらうと思える。平和な時代が続いたことで、その実感が薄らいでいるかもしれないが、一度崩れてしまうと簡単には戻らないモノ・コトであることを十分に理解し、推進計画をもとに確実に実動につなげたいものだと思う。

振り返ると、オリンピック・パラリンピックもあつたが、コロナにより、誰もが予想していなかった事態になり、県が予定していた文化活動も十分には発揮することはできなかった。ただその中でも、「ちば文化資産」としての111件を決定したことや、それをういた絵画・写真展などは今年度も継続され、音楽の領域で言えば、障害を持った人も参加可能なコンサートの工夫などもあつた。それらは数少ないオリンピック・パラリンピックのレガシーとして、今後もぜひ継続してもらいたい内容。

21世紀になっても、「まさか」ということがこんなに頻繁に起こるとは私は思っていなかったが、きっと多くの方がそうだと思う。テレビを見ると、瓦礫を背景に演奏されている人もいたが、やはり「文化」というものはどういった時代の中でも人を支える大きなもので、人もまたそれを守ろうとしなくてはなりません。県庁の方々には、文化的に豊かな県民生活の基盤構築を、今後も長期的視野から継続し牽引されることを願っています。